

第3回泉佐野市教育問題審議会 会議録要旨

開催日時	平成26年5月8日(木) 午後7時00分～9時00分
開催場所	泉佐野市役所4階 庁議室
案件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開会 ・ 案件 <ol style="list-style-type: none"> (1) 問題点と課題の整理 (2) 事務局案の検討 (3) その他
委員出席者	菅会長 佃副会長 馬野委員 森田委員 橋本委員 作野委員 孫左近委員 冠委員 芝野委員 神藤委員 高浦委員 岩田委員 山岸委員
事務局出席者	東口 教育部長 小川 教育総務課長 飯田 学校教育課長 神於 教育総務課教職員担当参事 東 学校教育課人権教育担当参事 福島 教育総務課施設担当参事

会長：只今から第3回教育問題審議会を開催します。本日の現在出席は11名で会議が成立しております。まず、はじめに、年度もかわり、委員の方々も若干の変更もあったことですから改めて委員の方々のご紹介をします。事務局の方をお願いします。

事務局より・委員の紹介、事務局異動者の紹介

会長：続きまして、前回、第2回目の議事録ですが、既に委員の皆様には教育委員会から送付されていると思いますが、修正点などがありましたら、今、この場を出して頂けますか、皆様のご承認を得たあと、市のホームページに掲載することになっておりますので、ご覧頂いて、修正等がございましたらお知らせください。今、少し目を通してください。いかがですか。無いようですので、議事録については了承を得たということで、事務局の方、ホームページの記載よろしくをお願いします。

事務局：はい、わかりました。

会長：では、案件に移ります。まず、前回、問題点と課題の整理について、お願いしておりました、資料1が出ています。これについて、通学区域制度の弾力的運用制度について、ご審議する前に「問題点と課題の整理について」通学区の5つの課題について事務局から説明をお願いします。

事務局：では、前回までの簡単な流れを説明させていただきます。第1回の会議では校区をはじめとする、現状把握として、ご説明、並びにご審議頂きました。前回の第2回の会議では、主に通学区の問題点と課題についてご審議を頂きました。特に今回から3回程度の会議におきまして、ご審議頂く課題につきましては、5点検討して頂きます。恐れ入りますが資料1をご覧ください。まず、課題の1点目としましては、現行の通学区は複雑に入り組んでいまして、町を分断しているところがあります。これは、学校建設時の立地の問題、あるいは、子ども会や祭り等、町会の問題点、その他、歴史的な経過によるもの、さらに理由は非常に複雑で、現在では、把握できていないものがあります。後ほど案件2において、町単位での校区割をしたものを説明させていただきます。次に課題2として、鉄

道や交通量の多い幹線道路の横断などにより、登下校時の危険性が高まっています。これは過去通学区域の大きな変更のない中、空港開港に向けた都市基盤整備により、幅員が広く交通量の多い道路が建設されるなど、児童の登下校時の環境が大きく変化していることです。こちらにつきましても、後ほど、案件2において、道路などにより校区割した案を説明させていただきます。次に課題3としまして、地域的な偏在により、学校規模の差が拡大していることです。これは少子化の影響で、児童生徒の総数は全国的、同様に泉佐野市でも、減少傾向にあるものの地域的な偏在により、学校規模の差は拡大しています。問題点として、大規模校では、今後も児童数の増加が見込まれ、教室数や運動場の面積不足などの教育環境の悪化を招く恐れがあります。また、反対に小規模校では、児童数の減少が進み、教育活動における弊害が懸念されます。つまり、学校間での教育条件や教育環境に不均衡を生じていると考えられます。次に課題4としまして、通っている学校より、より近い学校があるにもかかわらず、遠方の学校に通学することにより、児童の登下校時による、安全性の低下と身体的負担があるということです。そして、最後の課題5ですが、小中学校の通学区域の接続性が悪化していることです。これは、1つの小学校から複数の中学校への進学が生徒にとって、進学に伴う学習環境の変化に加えて、心理的な負担を強いる恐れがあると考えられます。以上5点でございます。なお、前回にご審議し、ご意見頂きましたが、今、申し上げた課題を全て解決することは困難であろうと思います。すべてを考慮すれば、するほど、結果、今と同じ校区になる危険性があります。どのファクタを重要視して、新しい校区づくりに力点を置くべきかを念頭にご審議頂ければ、幸いです。よろしくお願いいたします。

会長：はい、ありがとうございます。問題点と課題の整理について、5点課題を説明頂きました。何か質問、ご意見ございますか。

ないようですので、実際に具体的に今日は2つの課題を解決すべく案を出して頂きましたので、それについて、説明頂きたいと思います。5点あるのですが、1回に全てだすのは、困難で、今回の2点の資料を作成するのに時間がかかりました。ご覧頂くとわかりますが、細かい資料になっております。それでは、資料3について事務局から説明をお願いします。

事務局：それでは、資料2の真ん中の校区内人数（町別）の表と資料3を見比べながらお聞き頂きます。資料3の図面ですが、現状の校区をベースに町単位として補正し、校区割を検討したものです。まず、資料2の真ん中の表を見ながら聞いて頂きたいと思います。児童数の変化ですが、現状の校区に比べて、少し大きくなったり、小さくなったりする部分が出てきます。これは一定、町ごとに分けた場合の結果での児童数の変化だということを報告させていただきます。まず、現状と比べまして、増えた部分を先に申し上げますと、第一小学校は、101名の増加、以下同様に第三小学校では、145名の増加、日根野小学校では、156名の増加、佐野台小学校は、127名の増加となっております。一方、第二小学校では、校区が少し狭くなったということから、154名の減少、日新小学校では、93名の減、長南小学校では、39名の減、末広小学校では、40名の減、中央小学校では、187名の減となっております。以上のことから、この資料3に基づいて、町別で補正した図に基づいた場合、第二小学校や中央小学校の大規模化が緩和されるとともに第三小学校や佐野台小学校の小規模化が解消される。反面、大木小学校は相変わらず、変化せず、更に日根野小学校に至っては、今以上に大規模化し、もう、既に学校として体はなさなくなってしまう、拡大することになってしまうこととなります。更に5年後についても、同様の結果がみられます。更に資料3の図面を見て頂いたらご理解頂けると思いますが、新たな課題といたしまして、例えば日根野小学校においては、日根野の町単位で見ますと、俵屋まで入ってしまいますので、現、中央小学校区域、中央小学校のすぐ近くまで、日根野小学校の校区になってしまうとか、そのような課題が出てきたと思われま

た、長南小学校区の南中樫井と長滝の間に上之郷地番がありまして、これも町単位といたしますと、長南小学校区を2つに分断して、上之郷小学校区があるというようなことにもなり得ることも考えられます。また、長坂小学校区や日根野小学校区、佐野台小学校区のちょうど中間あたりについては、3つの町会が非常に入り組んでいますので、校区がいびつな形になっているのがご理解頂けるかなと思っております。こういう形に町単位で補正を加えましたが、人数的には、日根野小学校を除いては、一定の人数で収まったのですが、形態としては、いびつで、また、学校の位置としても、校区の端の方になる地点になることも見受けられます。簡単ですが以上です。

会 長：はい、ありがとうございます。先ほどありましたが、もしこれで行くと、現状の施設のキャパに合わないというところを説明してくれますか。

事 務 局：単純に申し上げますと、第三小学校で、現在93名で、1学年1クラスの構成です。通常の教室以外の支援教室などもありますが、1学年2クラスになってしまうと対応できない状況です。そして、佐野台小学校は、倍増することになっていますが、耐震化できていない校舎が1棟あります。それを除いて、あとの3棟で、今年度耐震工事を行います。その3棟で、配置を考えると現状で、いっばいで、これ以上増えると対応ができない状況です。日根野小学校はこれだけ増加すると、過去に敷地を買い足して、増築した経過もありまして、物理的にも増築は困難だと思われれます。あとの学校につきましては、対応できると思います。従って、現在の小規模校は生徒数の数的には解消できても、施設的には増築等の対応が困難な状況です。

委 員：今、キャパの問題で説明頂きましたが、今は抜本的な改革をしようとしていますので、ある程度の設備投資は考えてもらわないと、先に進めません。先ほどの、耐震化しない校舎は、耐震化するなど、それを制約条件にしてしまうと、先途のしようがない。抜本的に教室の数が足りないとかはわかります。それは建て増しが必要や学校をもう1つ建造するとかはわかりますけど、それ以外の小さな条件については制約条件に入れて欲しくないです。

会 長：はい、ありがとうございます。特に町別にきっちり線を引きましたので、ご意見ありますか。

委 員：きっとこれで、町別でできたらこれに越したことはないと思います。もう1つの案の幹線道路もわかりやすくしていいのですが、町別のほうで、できるならいいと思います。先ほど説明を受けた第三小学校と佐野台小学校は、実際の人数からすべてが2クラスになるわけでもないで、これは倍になることでなく1.5倍ぐらいとも考えられると思います。それも本当に難しいのかということと、そうなれば、問題は日根野小学校だけなので、ここを2つに分けるとかどうですか。1つの解決策としてですが。

会 長：はい、ありがとうございます。これで決まったわけではなく、ここでの課題をあぶり出し、他とリンクさせることが、当初からの考え方ですので、いろんな課題を出して頂ければと思います。他にいかがですか。例えば、先ほどありました、俵屋の子どもたちは日根野小学校まで、線路を渡って、通わなければいけない。など、見えてくるものはたくさんあると思います。

委 員：この資料で、数字だけの問題で理解させて頂いたら、第三小学校でも道路等の制約による人数割りのほうがバランス的にはいいと思います。ただ、これがいいのかどうかは、現実問題、もう一度審議が必要ですけど。すべてがOKという条件はないですから。

委 員：子ども会や鉄道道路等の条件をいろいろ考えると、やはり町別の校区割が良いと思いますが、実際に第三小学校と佐野台小学校の教室数、上之郷小学校も最近2クラスの学年も出来たようですので、この先に2クラスの学年が出来た場合、35人や40人学級かということもありますが、対応できるか。日根野駅近くに新設の小学校を建てればいいのか、と思います。中央小学校の区域も通うことができます。実際に前回の審議会でも、統廃合はなくなりましたので、この資料の町別の校

区割は数字だけを見ると、とてもわかりやすく良いと思います。でも、日根野小学校は無理ですね、これ以上、増えることは無理です。増築を重ねていますし、運動場も狭いことは、以前の資料から桁違いに狭いので。

委員：私は去年と一昨年に PTA 連絡協議会として、日根野小学校の現状を確認しました。運動会にしても人があふれます。今でもその状況です。ただ、教室は充分足りています。子どもたちが運動場で遊ぶとなると狭く、怪我などの弊害が出ています。ですので、これ以上になると收拾がつかないと思います。また、この資料の表で、俵屋を入れると、すごい距離になりますよ。少し話が脱線しますが、せっかく近くに中央小学校があるのに遠い日根野小学校に行く場合、私たちは俵屋の保護者にどういう風に説明できるのか、悩みます。当然、町会に関係していると、俵屋町会に加入しなければいけませんし、日根野だけの話で申し訳ないですが、これは困難だと思います。全部がうまくいく訳ないと思います。でも日根野小学校は少しずつ改善して、校舎を増築し、土地も買い、現状はうまくいっていると思いますが、逆に第三小学校や佐野台小学校を日根野小学校のような対応で、2年後3年後に向けた考えはないですか。そのほうがスムーズにいくと思います。

会長：はい、これをベースにするわけではなく、ここで課題を見つけて、他に課題を発表して頂ければ。

委員：佐野台小学校の廃校はないのですか。全くないということですので、今回の資料の町別でわけるとはいいと思います。中町の現状は、小学校は第二小学校に通い、中学は新池中学校へ行きます。それは、中学校では少数で、数十年前からいじめの問題があります。平成8年に PTA の会長を務め、その印象を持ちました。そのことから、町別がベターだと思います。

会長：今、発言ありましたように一つの小学校から複数の中学校へ分かれる等の件は課題5の方で、検討していきます。

委員：この会の共通認識として、事務局にお尋ねしたいのですが、現在の校区割というのは、いつ頃できたのですか、それと、今の市の現状と大きく変わったところは何かということです。

委員：俵屋が分離したのが、約30年ぐらい前ですね。

委員：その後の変化を考えれば、関空の開港で泉佐野市はものすごく変わったと思います。それに対する対応ということで、今起きている問題だと、私は認識していますので、そういった変化を取り入れていかなくてはと思います。そうでないと、現代にあったものができないですから、そういったことを織り込んで調整をやっていく必要があると思います。

会長：その辺の経緯を調べることができるのなら、事務局から次回の資料として、提出願います。そのような歴史を掘り起こすこともひとつの手だと思いますので。他にどうですか。

委員：私は長南小学校区で、資料3の1枚目の真ん中の左下にある上之郷の細長いエリアですけど、ここになります。小中学校は長南小学校で町会は長滝に入れてもらっています。小さい頃から町内会も別で、大人になってから、知っている人が全くいない上之郷町内会で活動することになります。大人はそれなりに馴染むので、いいですが、それよりも、中途半端に線路を超えて、生徒が反対側の学校へ行くことの方が危険だと思います。日根野の俵屋もそうですが、私が俵屋で生活する保護者でしたら、中央小学校へ行かせてほしいと思います。

委員：私の個人的な経験で思ったことですが、他所の事例でもありますが、例えば、高速道路が通った時に町が二分される場合があります。そうすると、事実上、行き来ができない状態になりまして、そうしたら、すでに、以前の町割りが合っていたのかという問題になって、次に逆の問題が起こってくることになる。現在の泉佐野市はその状況に近い部分がありますので、施設面でのどうにもならない境界というのは認識せざるを得ないと思います。

会長：はい、他に意見はないでしょうか。では次に資料4の鉄道や交通量の多い幹線道路を横断などによ

り、登下校の危険性が高まっているので、それを解消する区割り資料の説明を事務局で説明をお願いします。

事務局：先ほど、ご質問ありましたけど、昭和56年以降は通学区域の大きな見直しは行われていません。ですので、それ以前については、どういう経緯か、次回にどこまでお示しできるかわかりませんが、検討させていただきます。では、資料2の右側の表と資料4を見ながらお聞きください。この資料4ですが、先ほど会長からも説明ありましたけど、空港開港後の空港連絡道路や国道26号線、JR等、大きな道路を中心に校区割をできるだけしていくと、どうしてもできない部分もありますので、例えば、長坂小学校や佐野台小学校の辺りなどありますが、できるだけ、道路や鉄道を念頭において、検討して作成したものです。まず、児童数から説明させていただきます。現状と比べまして、第三小学校では、216名の増、以下同様に上之郷小学校は151名の増、末広小学校では329名の増、佐野台小学校では、83名の増、中央小学校では、282名の増となっております。一方、第一小学校では、189名の減、第二小学校では、335名の減、日新小学校では、139名の減、日根野小学校では、263名の減、長南小学校では、76名の減となっております。以上のことから、第二小学校や日根野小学校の大規模化が、緩和されるとともに、第三小学校や佐野台小学校の小規模化が一定解消される反面、大木小学校は変わらず、末広小学校及び中央小学校の大規模化が進んでしまう傾向にあります。また、5年後についても、同様の傾向があります。さらに資料4の図面をご覧頂ければ理解できると思いますが、現状に比べて、小学校の区域の中心に近いところに学校が配置されていることが見受けられます。一定、距離の均等化につながっていると思います。

会長：はい、ありがとうございます。では、先ほどと同じように、施設関係の説明をして頂ければ、さっきより数が変わっていますので。

事務局：中央小学校の人数が約1.5倍になり、現状のクラス数は25クラスで、特別教室を普通教室に転用できるなら現状の施設で収まると思います。あと、第三小学校も約300人、各学年1クラスから2クラスになる。教室の転用は難しいと思いますので、増築等を視野に入れていかないとはいけません。上之郷小学校は、こちら第三小学校と同様に現状、教室は全て埋まっていますので、増築が必要だと思います。こちら数年前に増築をしていますので。

委員：増設の可能性はないのですか。場所があれば、当然すればいいのですよね。先ほどもいいましたが、現在の建物を前提にしないで、小規模の投資も考えて頂かないと。

事務局：そうですね、具体的に増築できるスペースがあれば、建築できますが、第三小学校や上之郷小学校も小学校用地としてはかなり狭い現状です。今回、第三小学校は体育館の建替えを行っています。以前の体育館の倍近い大きさになりますが、今の小学校の体育館として、必要な大きさで、どうしても増築スペースは運動場になってきます。しかし、運動場も必要最低限の広さを確保しているのも現状です。ですので、なかなか、増築は難しい現状です。末広小学校は、現状37教室で、教室は足りる予定ですが、こちら、多様な形で利用していますので、それを普通教室に転用できるかどうかです。運用方法をどういうふうに対応していくかどうかの問題が出てきます。

委員：第三小学校が施設面で厳しいということですか。

事務局：そうです。上之郷小学校も含め、増築するスペースがないです。

会長：ありがとうございます。先ほどの町割とは数字が変わってきますので、それぞれ、課題が出てきます。先ほどは日根野小学校に拍車がかかり、今回の道路割では第三、上之郷、末広、中央小学校が増えてくるということです。一看すると、数字のバランスはいいのですが、施設自体は受入できないという課題が見えてきました。道路割で、ほかにどうですか。

委員：町に関係なく、区分けしているから、日根野小学校と中央小学校の2校分を3等分するなどの末広

小学校と長南小学校が隣接しているから区分けの線引きを調整するなど検討してはどうか、また、以前の資料に生徒一人当たりのグラウンド保有面積がありましたので、今回の校区割案の場合には、どう一人あたりの面積が変わるか、示して頂ければ、そこから、人数の調整も検討できると思います。日根野小学校は桁違いに狭く、このように667名になった場合、他の学校に比べ、緩和されているかどうか、参考になると思います。同じ500人規模に人数を揃えても、運動場の面積が違うので、そのあたりの参考資料として、お手数ですが、資料をお願いします。

会長：資料は大丈夫です。町の割り方で、もし、こうなるとどう思われますか。

委員：私は、違う上之郷から長滝ですけど、これが普通で、むしろ、きれいに割っていると思います。線路による線引きという理由もつきますので。

会長：そうですね、きれいで、教育的な配慮ということでは、子どもたちには危険が及ばないという、今までも、事故はなかったと言っていました、今後どうなるかわかりません。

委員：全体の距離的にも近くなるのかな。非常に遠い距離がなくなるね。

委員：中央小学校と日根野小学校の境界線を空連道や線路にせず、13号線にしたら、少し解消できませんか。

会長：海側の住吉町は、どこの学校ですか。

事務局：現在も北中小学校ですが、住吉町は食品コンビナートで基本的に子どもはいないです。

会長：子どもたちの歩く時間、通学時間を考えると、これもベターですね。

委員：中央小学校が真ん中にあるので、町会や道路の制限がないのなら周辺に振り分けて調整しては。

委員：それと、もう1つ、今現在、折り込んでいるのは、将来人口の自然増ですね。ここまで来て先見性のあるものをするなら、社会的増を当然に予想される地区がありますので、その辺は考えていかないと5年後10年後に再度、具合悪いとなると、この委員会は何をを考えていたのかとなりますよ。だから社会増をある程度、加味しておかないといけませんね。

会長：ですので、資料2の右側の上と下の表で下が5年後ですね。それでも中央小学校の自然増を考えると、30人程度減っています。

委員：過去から見て、この地区はすごく人口は増えたということがなければ、わからないですよ。この割り方だけでいくとこの数字は、もしかしたら、もっと人口の見込み数が高くなる場合もあるかもしれないので、一概にこれだけで、5年後というのは難しいです。

委員：不動産屋でないけど、人気のある地区はどこかということですね。

委員：話の腰を折るようですが、中学校区がどうしても気になります。この小学校区を分けることなく、このまま中学校へ進学することはできるのか、その予定まで、検討していませんか。

会長：これをベースにするかどうかは、まだで、現状をベースに課題5へ取り組むのか、この道路割をベースに割り振るのかで違ってきます。それと、毎回会議で出ますが、日根野駅前のマンション開発による影響もあります。

委員：JRでは日根野は始発駅ですので、人気が高いので、これからも増える可能性があります。りんくうのほうは私はどうなるか、わからないですが、増えているのですか。

委員：日根野はバブルに置き去りにされたところで、今、バブルがきているのですよ。当時は人口が増えなかったで、そういう意味では、田畑がたくさんあるし、まだまだ空地があります。駅上の開発は進むと思います。

会長：日根野はこの案では、621名です。

委員：日根野はここ数年劇的なのですよ。私は日根野出身ですので、すごく増えたと実感しています。地域別でどれだけの割合で増えたかも重要ですので、そこも解消しないと。

- 委員：市役所では、地域ごとの人口伸びはわかっていますので、出生数だけでなく、社会増減もわかっているはずなので、それだけでなくおそらく増えている判断をしていますよ。
- 委員：子どもの数だけでなく、こういうふうな人数も見たほうが、将来性がありますよね。
- 委員：それと新しく入ってくる人は若い人だと思います。
- 会長：日根野のマンションは、かつて、自転車置き場、あるいは、田畑を埋め立てる。こういうことが、どんどん起こってくるなど。
- 委員：前にも言いましたが、今のマンションはもともと市の土地を売って、建てられたものですから、市が責任をもって、考えて頂かないとしょうがないですね。土地の売った資金で、もう1つ学校を建ててもらおうとかね。
- 委員：私も必要なお金は使うべきだと思います。そうでないと解決しないと思います。
- 委員：道路区割もすっきりしている図面で、人数割りもバランスが取れそうですが、全てが更地であったらこれでいいと思います。これまでの積み重ねがある中で、これだけの案を提示しても、まずは厳しいと思います。この中で、どこかで区割りをする場合、資料3との兼ね合いで、これぐらいなら辛抱してくれるというか、地域住民の理解を得られるのはどれか、今ある調整区域と合わせた中で、探りよせることが、落ち着く先かなと思います。
- 委員：意見を申し上げる前に質問ですが、末広小学校と日新小学校は、第二阪和国道で線を引いていないのはどういう理由からですか。
- 事務局：末広小学校は第二阪和で引いてしまうと非常に狭あいになり、児童数が少ないということで、第一小学校の部分解消するがために、末広の部分を取り除くほうまで、伸ばしたということもあります。我々もこの検討のなかで、正直に第二阪和、高架されていない南海線を通るので、この末広校区については委員から意見が出るであろうと察していました。これを第一小学校区に戻すのか、どうか、変更は必要になってくるかなと思いつつながら、児童数をベースに作らせて頂いたのが事実です。日新小学校についても学校を出来るだけ中心に配置し、児童数に合わせた場合、第二阪和より山側のほうを例えば長坂小学校区、佐野台小学校区にした場合、いかがなものか、ということの中で、これについても、ご意見が出るかと思いましたが、こういう形態にして頂いた、ということです。
- 委員：お話をさせて頂いたのは、私も神藤委員がお話しして頂いたことと同じ気持ちを持っているのですが、その幹線道路とか、鉄道に分けて、人数がちょうどいいですよということになった時に、それで、頭にクエッションを持った人は、ここはそうじゃないとか、という意見が、多分出てくるだろうと思います。だから、それがきちんとした説明理由として成り立つのかどうか、ということが、例えば、構造物によってこうなりますので、ご理解くださいという説得力を持っているのかどうかということもここで、1つの穴ができていだろうと、いう風に本当に恣意的に分けただけの線に見られる可能性があると思います。私の意見は、今私は日根野中学校区で勤務しています。新しい住民の方を含めて、日根野中学校区の方々は、本当にその人たちを取り込んで、子どものために一生懸命に地域の掘り起しなどをやっていますね、色々な通学区の心配事があるかも知れませんが、それでも地域をひとつにまとめようと努力をされているのですよ。自分の時間や労力を使って、そういう努力をされている中で、それをどういう風に評価してくれているのだ、という気持ちですが、これを見て、多分出てくるかなと思います。そのところで、かなり、説得のための力が必要になると思うのですが、私はお願いしたいのは、先ほど俵屋の話が出ましたが、日根野校区の様々な寄合に俵屋が日根野中学校区に来てくれています。日根野町会の他の町の人たちと色々な活動をしてきていますが、それは、今は非常に和やかな活動をされています。その俵屋は中央小

学校が出来たときに中央小学校に通ってくださいと当時はなっただと思います。その時にどんな話があったのかと思います。一定、ご存知の方がいらっしゃるかもしれませんが、当時、日根野小学校から中央小学校へ行かれる時に俵屋の人たちはどんなふうを受け止めたのか、日根野の他の町会のひとたちはどんなふうを受け止めていたのか、ということが1つの経験として、あるのかなと思うので、そういうところをお聞きしたいと、今日は無理だと思いますが、本当に1つになって活動している日根野地区の人たちの、ある1つの町会だけ別のところになっていきますけど、地域の集まりとしては、今も仲良くやっているという状況があるのは、成功例と思えるのですが、そんなところを教えてくださいと思います。

委員：今の話について、教育委員会でもどこまで、調べられるかわかりませんが、当時の担当課の人にヒヤリングしたらいいと思いますが、私の知っている限りでは、俵屋が中央小学校に編入されるときに町内はみんな反対したと、でも過半数は編制に賛成だったと、では、どこが、過半数か、というところ、俵屋は今、町会の家数は55件ぐらいです。それより多い数の人たちが中央小学校の方が近いからということで、賛成した。そういう人たちは新しく住み移られた方たちで、それは、今の町でいうと日根野西と呼ばれる地域で、自治会に入っていない方もいると聞いています。そういう経過があったと私は聞いています。旧来の俵屋の人たちは、中央小学校が近いけれど、これからのことを考えたら、日根野小学校へ遠くても、保護者も通って来たので、このままで良かったけど、市が決めた事なので、しょうがないと承諾したと聞いています。

委員：ということは、今のご意見から、町会というのは、一枚岩でないということですね。だから、新興の方が入ってきたら、そちらが増えてきますから考え方も変わってきます。だから、先ほどのスタートに戻りますが、現在の校区割はそれなりの合理性があったと思います。納得が前提になっていたと思うが、非常に矛盾が出来てきたということが、今回の校区の考え方の問題で、町会というか地区というか、それ自体もある程度、崩壊していると認識せざるを得ないと思います。

委員：町会が崩壊しているというのは、新しく入ってきた人たちの組織化が進んでいないということであって、日根野の場合は少なくとも、そういうことがあてはまらないと思います。この道路の区割り、日根野駅のJR阪和線の北側、中央小学校よりの部分は町会でいうと野々地蔵ですが、阪和線を挟んで反対側も同じ広さぐらいの野々地蔵の町会のエリアがあります。町会を半分に分けてしまうという状況になると思います。大体、日根野駅から南西方向に道路が伸び、S字で空連道まで続いています。この道路から阪和線よりのエリアも野々地蔵になります。住民の数は比較的少なく、先ほど話題になったマンションが中心になり、以前からお住まいの方も数名あります。それをまた、半分に分けてしまうことに繋がってしまうので、一概にJR線で日根野を分離するというのは、理解してくれないと思います。

委員：ここは、間違いなく、おっしゃる通りです。絶対になんでこんな割り方するのかと言われます。市で決めて頂いた校区割で、児童数だけで割ったなら合理的であろうとなりますが、地域を大切にしている地元の人は、そうされると、すごく反発がでると思います。本当にこれは野々地蔵が真二つになっています。それで、町会には入っていないけど、子ども会には、入っているという子どもはたくさんいます。他所からきた子どもも、子どもだけ子ども会に入っている場合もあります。これを良く考えれば、他校の子どもたちとの交流ができるのかなと思いますが、ただ、おやごさんや地元のかたに、どれだけの説得力のある理由があるかどうかです。

委員：ただ単に、学校が近くになるからでなく、また、安全だからだけでは納得しないということですね。過去からのしがらみとかありますから。

委員：もう1つ、日根野小学校のキャパですが、運動会の際に親御さんが観覧席に入らない状況というこ

とですけど、それを解消するには、老朽化しているプールを他へ移せば、充分です。ただし、間に水路がありますので、これは、国へ申請するなど必要です。あと、校舎が足りないということでしたら、隣接に田畑がありますので、買収はそれほど難しくないと思います。ですので、なんぼ増えても心配いりません。買収は、私も地主へお願いした経緯があり、現在の山側の校舎の新設に携わりました。まだ、周辺に田んぼが残っています。1000人や1200人になっても大丈夫です。

副会長：以前、寝屋川市の教育委員会事務局の指導主事をしていたときに、抜本的な校区編制の仕事に関わらせていただきました。閉校になる小学校もありましたので、上司が病に倒れるなど、特に校区変更になる保護者・住民の方々との説明会などは非常に困難な状況がございました。やはり子どもをもつ保護者の方はもちろんのこと、関係する学校の卒業生や地元の住民の方々の感情を考えますと、慎重に取り組む必要があると思います。教育委員会からご提出いただいた道路鉄道割はとてすっきりとしています。それだけに住民の方々のお気持ちやご意見を調整するのが非常に難しい地域等がございましたら、それをお伝えいただければと思います。

あと一つ、第三小学校の状況を改善するには、どうしても教室が足りないというお話がございました。しかし第三小学校の小規模を解消するという目的は当初かあったように思います。そうすると、第三小学校をあと何人くらいまで増やすことが可能であるのか、その最適人数をお教えてください。この2点についてお願いします。

会長：はい。今、質問がありましたが、言葉が悪いですが、多分、火を噴くだろう、住民からの反対が、かなり出てくるだろうと思われる地域が、もし、あれば、出して頂ければ、いかかでしょう。先ほどは日根野駅の周辺など、ありました。

委員：多分、どこの町も同じ状況ですよ、統廃合できなかったのは、そういうことだと思います。それは、今回も同じようになるかもわかりません。結局、どこまで、強引にできるか、または、投資できるか、教育委員会が命を落としてまで、がんばるか、そういった覚悟があるかで、どこの町も弊害があるので、今のままでいいとなりますよ。だから、数年前の審議会で、統廃合ができなかったと思います。

委員：参考までにお伺いしますが、副会長の寝屋川市の場合はどうでした。

副会長：学校を2校、閉校にし、校区を市全体に大きく調整しました。その時に10年後に必ず、子どもたちを幸せにすると保護者、市民の方々を説得いたしました。小学校が2つか3つに分かれて中学校へ行くところをすべて、2つの小学校が1つの中学校へ行くというふうに整理したことは、今では非常に良かったと評価していただいていると思います。

委員：そうですね、単に反対するわけがないです。納得することがその先にあれば、単純な反対はないですよ。教育委員会や市の方が、自信を持って、言えるものがあれば、問題はないと思います。方向性を示すことです。私は、以前の統廃合の経緯は、存じませんが、個人的に考えると当然、人数の少ない学校で、近くに学校があれば、統廃合になることも理解できます。ただ、説得の仕方や、持って生き方で、受け止め方が違ってきますので、そこをどれだけ、考え抜いて地域に持っていくか、今まで、20数年変わってないものを一気に変えるわけですから、相当困難だと思います。

会長：説得より納得といたしますので、そういうことですね、審議会で決まったとしても、そのあとに教育委員会会議があります。そして、今度は議会を通す必要があります。この段階を踏みますので、ここで、地域の議員さんたちが動くでしょうし、このベースを我々がつくることになります。

委員：若い委員さんの意見はよくわかります。日本の国というのは、いきつくところまで行くのです。少子化の問題でも、20年前から考えていましたが、何も手を打ってこなかった。国の借金問題も同じで、これもいきつくところまで行こうとしています。この問題も一緒に、みなさんは、矛盾があ

ると思っているが、結局はやめよ、今のままで良いとなる。これが、今迄の日本の生き方ですよ。ここで、一回、本当にやるかどうかです。この泉佐野市において。ただし、実務的なことが、教育委員会は大変だと思います。

会長：二つ目の質問がありました、第三小学校の件はどうですか。

委員：第三小学校は、昭和26年か27年ごろに泉佐野市の人口が徐々に増えてきた時代に、第一小学校と第二小学校を分けて、後に教育長になる校長が天野文部大臣から揮毫をいただき、日本一の小学校にすると、第二小学校の若い職員らを伴って第三小学校に赴任したそうです。その時に第三小学校は第一小学校に通う春日町、新町と第二小学校に通う旭町とが合流してできました。大宮町にも南海線の海側ということで、声がかかったが、元町、西本町、若宮町などを合わせての商店街グループの繋がりが強かったのか、大宮町は絶対反対となり、第二小学校に留まった経緯があったと聞いています。そして、上町については、最近まで南海線が高架になっていませんでしたので、危ないから、ただ、線路を超えてすぐの家だけ調整区域として認められて、希望者の数人だけが第三小学校に通っている時代が続きました。今は南海線が高架になりましたので、そういう心配はなくなりましたから、案外、上町も、また社会が大きく変化してきたので、大宮町も第三小学校区となれば、第三小学校の方が近いうえに安全という理由で納得してくれる部分があるのかなと思います。

会長：はい、ありがとうございました。貴重な歴史をお聞きできました。施設関係で先ほどの質問に答えられますか。

事務局：第三小学校の最適人数ですが、昭和47年から50年代は400名あまりの人数があったと、その時の教室の使い方ですけど、1クラス40数名として、普通教室として使える教室を全て使っていた状況です。それ以降、平成7から8年までは、180名ぐらいの生徒数で、かなり減ってきたのが平成20年以降で、100名を切っていく状況です。150名あたりが最適といえるかもしれませんが、9教室使えて、現状は6教室で、他は全て支援等で使用し、空き教室は無く、1教室は学童でも使用し、全く余裕がない状況です。

委員：ある程度の設備投資は考えられませんか。

事務局：先ほども言いましたが、増築する場合、スペースがあれば可能です。しかし、現状の第三小学校で考えると、スペースは厳しい。ここは、昔の学校敷地にさくら幼稚園と保育所が併設され、それぞれの敷地を塀で分断していますので、現状の敷地の運動場を拡張するのは、その施設の敷地に侵入するため、厳しいです。ただ、1教室3階建て一棟を既存棟にくっつける場合は、建てられないこともないと思いますが、それが、限界かなと思います。

委員：今、申し上げたように、例えば、高層化するとか、それも設備投資ですので、現在の形を全然変えないということですか。

事務局：現状、今の建物を耐震補強するという事は、この建物を安全な形で使うという前提になります。それを高層化するとなれば、もう一度更地にして建て直すぐらいのものであれば、問題なく建てられますが、現状施設を使いながらというのと、先ほどの説明のとおり、難しいと思います。

委員：それが、制約条件として何名ですか。

事務局：例えば6教室だけ使うと230名がマックスとなります。

会長：はい、ありがとうございました。先ほどの町割でいくと数字だけをみるといい感じです。他にご意見ありませんか。

委員：さっきの私が発言したことが間違っって受け止められていたら困るので、少し申し上げたいのですが、この資料4で示されているようなことを具体的に考えて行くときには、副会長がおっしゃるように、このことで、違和感を持ったり、疑問を持ったりするような人たちがいるということをおそれどの

場所なのか、しっかりとイメージして、議論を進めていかないと、数と道路だけなのかというふうな怒りにきちんと答えられないのではないかと思いましたので、私はそう発言させて頂きました。今、寝屋川のお話をお伺いして、それはそう思いになられるでしょうが、ここはこういう未来が待っているのですというビジョンを語るということで、説得されたというお話は、それはそういう形だったのだなど、すばらしく思ったのですが、やっぱり、先に進んでいけば、必ず、ぶつかる話は絶対にあるので、そこをしっかりと見ていく必要があるなと思いました。先ほどのことで、言えば、この区割りで違う学校に、お父さんと違う学校に行かなければならない校区に変わってしまうところは、「えっ」と思うことになると思うので、そこをちょっと考えるだけで、いろんなことを思い浮かべられると思います。そういうところはどこか探すだけでも、意味があると私は思っています。

会長：はい、ありがとうございました。時間も迫ってきました。ぜひとも話をしたい件はございませんか今日は、町割と道路鉄道で割ったもので、二つを比較するわけにはいかないけれど、どちらかというと、道路鉄道がベターだという意見が大半だったと思います。ただ、これが全てではないので、いろんなびつさや課題が残っています。今回は資料1に戻って頂くと解ると思いますが、課題の3、4、5の中の作成しやすいものを2つ提示して頂きたいと思います。課題4は安全性や通学時間で、課題5はひとつの小学校から複数の中学校へ進学する児童生徒の精神的な負担をどう解消していくかというようなこと。このような案をまた、教育委員会が提示して頂いて、また、その課題を出していく、その次の5回目はそれをミックスしたようなかたちで、いろんな課題を解消するためには、どれをどう組み合わせしていくのか、モザイクのジグソーパズルみたいですが、そういうことになっていくのかと思います。今、校長先生からありましたように、そのあとに、いろんな課題を出して、そこをどうクリアしていくか、そして、合理性だけではなくて、納得してもらうためには、どういうことが必要なのか、進めていきたいと思います。